

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小平市立たいよう福祉センター		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月30日		～ 令和 8年 2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月30日		～ 令和 8年 2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者からの満足度が高く、支援内容に対しても一定の満足度を得ている。	・年2回のモニタリング面談以外にも、こまめに連絡アプリや電話連絡を行い、園児の発達段階や日常の困りごとを共有し成長を見守っている。	・令和7年度に連絡アプリを導入した。文章のやりとりだけでなく、文章から読み取れる保護者の気持ちや思いを汲み取り、必要に応じて電話連絡や面談を実施して保護者との信頼関係の構築につながるよう努める。
2	・職員は園児に対する係わりが丁寧である。また、職員同士のコミュニケーションが非常にとれており、目標に対してどのようなプロセスと係わりが必要か日々共有できている。	・毎日、活動後に振り返りを行っている。 ・振り返り以外にもクラスミーティングを開催して園児の情報共有を行い、クラス運営につなげている。	・研修内容について、基本的な研修から応用研修等、職員が学びたい研修内容を情報収集し、実施できるように企画する。より質の高い療育を目指していく。
3	・園児の発達段階や特性を理解し、視覚支援を導入している。	・限られた空間の中で、園児が見通しを持って過ごせるようにカードや写真を多く活用している。園児の主体性を促し、不安を減らして情緒の安定につなげていく。	・カードや写真を用いる際は、シンプルかつ明確なものを準備し、1人1人の理解度や興味に合わせて調整するよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化により修繕する箇所が増えている。また、部屋数も足りず、園児がクールダウンする部屋やおもちゃを収納する部屋が足りない。	・建物の経年劣化に伴い、棚のささくれや壁紙の剥がれが顕著に目立つ。 ・部屋が足りず、園児の個別対応やおもちゃの収納場所に限界を感じる。	・市に報告し、棚のささくれや壁紙の剥がれ等を修理した。定期的に点検を行っている。 ・園児の個別対応が必要な場合、室内ではパーテーションの活用、戸外では園庭や中庭を利用する。 ・使用していないおもちゃ等を定期的に見直す。
2	・きょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	・2024年6月子ども・若者育成支援推進法の改正により、きょうだい児支援が法的支援となったが、運動会で会う程度で交流の機会を確保できていない。	・保護者には園児が通園している間にきょうだい児との時間を設けて良いことを伝える。 ・園でどのようにして交流の機会が設けられるか検討する。
3	・通所時間の短さや延長保育の利用希望等の要望が出ているが、複合施設であるため解決に至らない。	・共働き世帯が増え、通所時間の短さや延長保育の希望があるが、複合施設であるため送迎バスの問題が生じている。	・現時点での改善の見込みはないが、昨今の社会の働き方の変容を前提に今後も関係各所との改善等の検討を続ける。